

富良野市の健全化判断比率（平成 24 年度）

1. 健全化判断比率の状況

	富良野市	早期健全化基準（市町村）	財政再生基準（市町村）
実質赤字比率 ・ 一般会計等の実質赤字の比率	－ （赤字なし）	財政規模に応じ 11.25～15% <u>（富良野市：13.74%）</u>	20%
連結実質赤字比率 ・ 全ての会計の実質赤字の比率	－ （赤字なし）	財政規模に応じ 16.25～20% <u>（富良野市：18.74%）</u>	30%
実質公債費比率 ・ 公債費及び公債費に準じた経費の比重を示す比率	9.5%	25%	35%
将来負担比率 ・ 地方債残高の他一般会計等が将来負担すべき実質的な負債を捉えた比率	62.1%	350%	－
公営企業における資金不足比率 ・ 公営企業ごとの資金不足の比率 （水道、ワイン、簡水、市場、下水）	－ （各々の会計において資金不足なし）	20%	－

2. 健全化判断比率における各指標について

(1) 実質赤字比率

(千円)

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額 } (\triangle 191,043)}{\text{標準財政規模 } (8,054,348)} = \triangle \mathbf{2.37\%} \quad (\triangle \text{負の値は黒字を示す})$$

標準税収入額	2,803,140
普通交付税額	4,758,560
臨時財政対策債発行可能額	492,648

(2) 連結実質赤字比率、資金不足比率

(千円)

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\begin{array}{l} \text{一般会計・特別会計の実質収支、企業会計の資金不足(剰余)額の合計 } (\triangle 1,869,812) \\ \text{全会計において黒字} \quad \text{【水道、ワイン、簡水、市場、下水 各会計において資金不足なし】} \end{array}}{\text{標準財政規模 } (8,054,348)} = \triangle \mathbf{23.21\%} \quad (\triangle \text{負の値は黒字を示す})$$

(3) 実質公債費比率

3カ年平均値：9.5%（平成22年度：10.2%、平成23年度：9.7%、平成24年度：8.7%）

参考（下記数式は平成24年度）

①元利償還金の額	④公営企業の地方債償還に充てた繰出金	⑤組合等の地方債償還に充てた負担金	⑥公債費に準ずる債務負担行為	⑦一時借入金 利子	⑧特定 財源の 額	⑨事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑩事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費 <small>（準元利償還）</small>	⑪災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑫災害復旧費等に係る基準財政需要額 <small>（準元利償還）</small>	⑭密度補正により算入された準元利償還金	
$1,188,677 + 338,886 + 138,644 + 81,187 + 0 - (169,003 + 178,699 + 191,935 + 554,415 + 24,288 + 8,820) = 8.7\%$											

標準財政規模 (8,054,348) - (178,699 + 191,935 + 554,415 + 24,288 + 8,820)

⑨事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑩事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費 <small>（準元利償還）</small>	⑪災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑫災害復旧費等に係る基準財政需要額 <small>（準元利償還）</small>	⑭密度補正により算入された準元利償還金
---------------------------	---	-------------------	---	---------------------

(4) 将来負担比率

①地方債現在高	②債務負担行為に基づく支出予定額	③公営企業債等繰入見込額	④組合等負担等見込額	⑤退職手当負担見込額	⑥3セク等の損失補償負担見込額	⑦充当可能 基金	⑧充当可能 特定歳入	⑩基準財政需要額算入見込額	
$10,533,730 + 74,947 + 4,215,787 + 704,299 + 3,129,838 + 22,732 - (2,819,161 + 1,958,641 + 9,492,603) = 62.1\%$									

標準財政規模 (8,054,348) - 算入公債費等の額 (958,157)